

見つめる
「語り継ぎ」の
今。

Disaster Folklore Museum Forum 2022
- The frontline of telling live lessons on disaster

(((Online)))

新型コロナウイルス感染防止
対策のため、オンライン配信
のみで開催します。

災害伝承ミュージアム・ フォーラム2022

—災害語り継ぎの最前線—

2022. 3.20 **sun**
13:30-16:30

第1部 13:30~

- 基調講演『語り継ぎと災害伝承ミュージアムの役割』
河田 恵昭 人と防災未来センター長
- 全国の災害伝承ミュージアムからの実践レポート

第2部 15:25~

- パネルディスカッション
『災害伝承ミュージアムにおける語り継ぎのあり方』

日 時：2022年3月20日（日）13:30-16:30

実施形態：オンライン配信イベントとして行います

配 信：人と防災未来センター西館1Fガイダンスルームより

対 象：どなたでもご参加いただけます

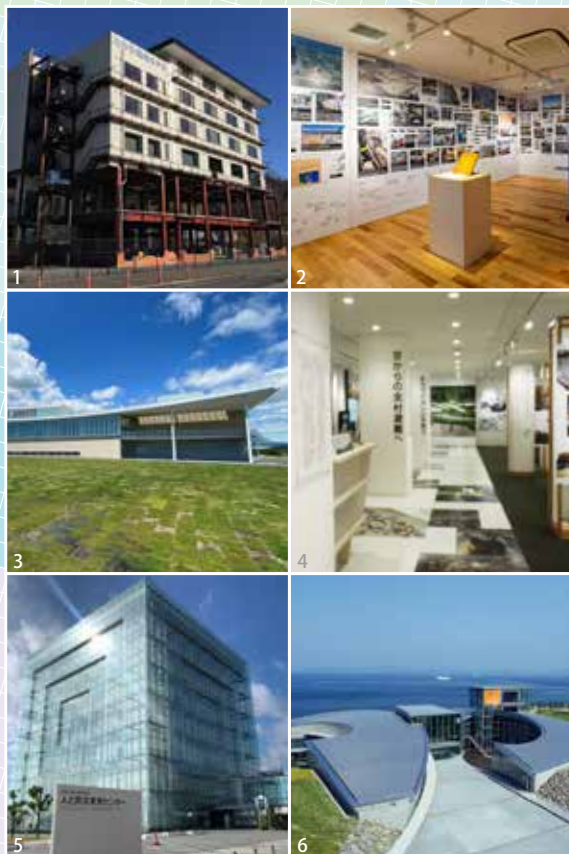
参加方法：要事前申込（3/18まで受付します）

下記特設ウェブサイトよりお申し込みください

<https://hitobou.com/museum-network/>

参加は無料です

申込者に参加方法をメールでご連絡します



登壇予定のミュージアム

- 1 震災遺構たろう観光ホテル
- 2 せんだい3.11メモリアル交流館
- 3 東日本大震災・原子力災害伝承館
- 4 やまこし復興交流館 おらたる
- 5 人と防災未来センター
- 6 雲仙岳災害記念館

問合わせ：ウェブサイトのフォームから企画担当までご連絡ください。

主催：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

共催：世界災害語り継ぎネットワーク (Tell-net)



一災害語り継ぎの最前線一

実際に起きた事柄に基づいて当事者が心から発する言葉、被災者にまつわる物や資料が訴えるパワーは大変強いものがあります。被災者が抱いた強い恐れや不安、深い悲しみや悔しさ、あるいはつらい状況であるからこそ、一層心に沁みた助け合いの気持ちなどが語り継ぎの受け手にも「わが事」として伝わります。

被災地が直面した災害の経験と教訓を遺漏なく後世に伝えていくには、災害の実体験が持つパワーを大切にしながら、被災者の主観的、断片的な体験を整理してわかりやすく表現する必要があります。この点で「ミュージアム」には大きな役割があります。また、「ミュージアム」が持つ組織の力は、風化を食い止めるうえでも大きな役割があると考えます。

このフォーラムでは、全国で災害体験の「語り継ぎ」に取り組む災害伝承ミュージアムが交流・連携を深めるとともに、新たな取り組みや知見、動向について共に学び、声と力を合わせて「語り継ぎ」の大切さを訴え、災害体験の風化と闘いながら「語り継ぎ」を継続し深めていく思いを新たにすることで、災害に強い社会づくりに貢献することを目的として開催します。

Program

第1部：13:30～

開催あいさつ 河田 恵昭 人と防災未来センター長

基調講演『語り継ぎと災害伝承ミュージアムの役割』 河田 恵昭 人と防災未来センター長

テーマレポート

- 1) 1.17 および、3.11 の語り継ぎ、今年の報道からみられる最新の傾向
- 2) 現在実施中の企画展示「全国災害伝承ミュージアムマップ」の紹介

全国の災害伝承ミュージアムからの報告

～全国各地の7つのミュージアムから、オンライン・プレゼンテーションをいただきます。

登壇施設／登壇者（予定） （関連の災害）

1. 震災遺構たろう観光ホテル／元田 久美子 学ぶ防災ガイド (2011年 東日本大震災・岩手県)
2. せんだい 3.11 メモリアル交流館／佐藤 敏行 館長 (2011年 東日本大震災・宮城県)
3. 東日本大震災・原子力災害伝承館／瀬戸 真之 学芸員 (2011年 東日本大震災・福島県)
4. やまこし復興交流館おらたる／和田 奈都子 中越防災フロンティア (2004年 新潟県中越地震)
5. 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター／筆保 慶一 事業部長 (1995年 阪神・淡路大震災)
6. 雲仙岳災害記念館／杉本 伸一 館長 (1991年 雲仙普賢岳噴火災害)

第2部：15:25～

パネルディスカッション

『災害伝承ミュージアムにおける語り継ぎのあり方』

パネリスト：全国の災害伝承ミュージアムからの報告者

ファシリテーター：澤田 雅浩 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授

高原 耕平 人と防災未来センター主任研究員

コーディネーター：平林 英二 人と防災未来センター企画ディレクター

総括あいさつ 深澤 良信 世界災害語り継ぎネットワーク 事務局長

「災害伝承ミュージアム・フォーラム」について

2019年10月に開催された「ぼうさいこくたい(愛知・名古屋)」の中のセッションの一つとして、人と防災未来センターが主催した「災害伝承ミュージアム・セッション」を実施し、以来、広島、岩手・釜石と3回実施してきました。

この「ぼうさいこくたい」、2022年は人と防災未来センター開設20周年に合わせて、当センターのある兵庫県神戸市のHAT神戸で開催されます。当センターでは、これを契機として、全国の災害伝承ミュージアムや防災・減災の重要性を訴える防災センターなどと緩やかなネットワークを形成し、交流・連携しながら災害の風化と闘い、安全・安心な社会づくりに引き続き貢献していきたいと考えています。

主にミュージアムの紹介をしてきたこれまでのセッションを発展させ、交流・連携を深めるためのフォーラムを開催します。

災害の「語り継ぎ」について

日本だけでなく、世界各地の被災地でも多くの人が災害の体験や教訓を他の地域や将来の世代に語り継ぐ努力を続けています。その方法も様々で、被災者が言葉で直接語る「語り継ぎ」だけでなく、写真や映像、遺留品などの物、音楽や絵画、記念碑などによるものや、災害を直接体験していない人々を媒介とする間接的な「語り継ぎ」もあります。また、地域の年中行事などによって災害体験を息長く語り継いでいる事例もあります。

ARで情報が
浮かび上がるよ!

2002(17)年
開館
阪神・淡路大震災
記念人と防災未来センター

現在、人と防災未来センターでは、
関連の企画展を開催しています